こちら消防です ダイヤル 119番

10月号の広報テーマ「暖房機器の安全な取り扱いの推進」西胆振消防組合

暖房器具の点検をしましょう

これから冬に向かってだんだんと気温が低くなり、暖房器具が必要な季節になってきます。

暖房器具による火災のほとんどは、取扱いや管理上の不注意によるものです。

火災事例から学ぶ 暖房器具火災を防ぐポイント

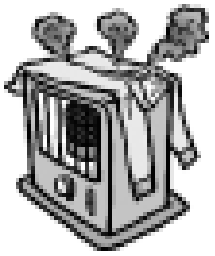
事例１：「ストーブに衣類が接触して出火した火災」

概要	衣類を温めようと、ストーブの近くにあった座いすにかけストーブに点火したが、衣類がストーブに接触し出火した

注　意　事　項

○ストーブの上で洗濯物を干すと、乾いたときストーブの上に落下する恐れがあります。

○カーテンや衣類・布団などのそばで使用すると、暖房器具に接触する恐れがあります。

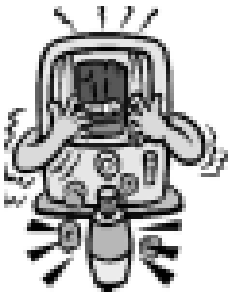


事例２：「ファンヒーターの熱でスプレー缶が破裂した火災」

概要	ファンヒーターの前に殺虫剤のスプレー缶があることに気づかずに点火したため、スプレー缶が過熱されて破裂し、噴き出したガスに引火し出火した

注　意　事　項

○スプレー缶などを暖房器具の近くに放置していると、過熱され、缶の内圧が上昇して破裂し、スプレー缶内の可燃性のガスに引火して爆発する恐れがあります。



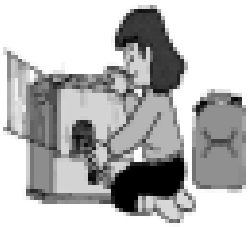
事例３：「使用中にストーブに給油した事から出火した火災」

概要	使用中の石油ストーブのカートリッジタンクに補給した際、口金を完全に締め付けないまま石油ストーブにセットしたため、口金が外れ、漏れた灯油に火がつき出火した

注　意　事　項

○給油するときには必ず消火し、火が消えたのを確かめてから行いましょう。

○カートリッジタンクの口金は確実に締めましょう。



事例４：「ストーブに布団が接触して出火した火災」

概要	電気ストーブをつけたまま寝込んでしまい、掛けていた布団がストーブに接触し出火した

注　意　事　項

○寝るとき、外出するときはスイッチを切る習慣をつけましょう。

○長期間使用しないときにはコンセントを抜きましょう。
また、ストーブを収納するときは電池を抜きましょう。

暖房器具からの火災を防ぐためには、火災の実態を知るとともに、取扱説明書などもよく読み、器具の正しい取扱いや管理をすることが大切です。また、暖房器具を使用する前には必ず点検をし、古くなった灯油は使用しないようにして下さい。

8月分 救急件数・火災件数

救急件数　　17件（累計 120件）
火災件数　　0件（累計　 2件）
※７月末現在（）は平成20年1月1日からの累計

“火は見てる　あなたが離れる　その時を”